

今日の聖書のことば

6月7日(日) ロマ 15章

力のある人は力のない人の弱さを担うべきである。キリストが私たちを受け入れてくださったように、私たちも互いに受け入れるのです。パウロは神の恵みによって主のために働きました。

6月8日(月) ロマ 16章

パウロの最後の挨拶が記されている。パウロは義によって生かされてきました。彼の周りには愛によって結ばれた多くの人たちがいました。これが教会の交わりの真骨頂と言うべきです。

6月9日(火) コリントー 1章

コリント教会の最大の問題は分派でした。パウロは皆が一致するように訴えます。教理上の対立があったわけではない。分派の原因は「十字架のことば」を軽視したことにあると主張する。キリストの十字架こそ一致の源だとパウロは叫ぶ。

6月10日(水) コリントー 2章

パウロはコリントでの伝道の経験を通して、この世の知恵ある者だからと言って主が救い主であると理解できることはない。知恵の言葉ではなく「御霊の御力」によって、キリストの十字架を宣教した。神の御霊によらなければ十字架は理解できない。

6月11日(木) コリントー 3章

パウロは、自分にしろアポロにしろ、仕える者にすぎない。自分たちの仕事に成果があるなら、それはただ神の御力によるものだ、とおしえる。土台は築かれた。後はこの土台の上に建てあげるのみです。

6月12日(金) コリントー 4章

私たちは神の奥義の管理者として、主人に忠実でなければならない。コリントの教会を心から愛していたパウロは、厳しく、時には皮肉さえ用いて、彼らに忠告しました。自分に倣って、忠実に謙虚に生きることを勧めます。

6月13日(土) コリントー 5章

コリント教会には大きな罪を犯した者がいた。誰もが知っていたが皆は自分のことで一杯で主の教えを顧みる者はいなかった。パウロは今、何をなすべきかをはっきり示し、明確を罪を示さなければ、悔い改めの機会を失い、救われないと言う。

ろば No. 1970

2020年 6月 7日
日本バプテスト立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ヘブル12:1

こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびたしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、

「私たちには神の家を支配する偉大な大祭司がおられるのですから、心は清められて、良心のとがめはなくなり、体は清い水で洗われています。信頼しきって、真心から神に近づこうではありませんか」

私たちは、キリストが私たちのために成し遂げられたことを見て、礼拝において神に近づき、私たちの信仰と告白を堅く保ち、互いに励まし合うために、一緒に集まるようにしようと、このヘブライ人への手紙の著者は勧めるのでした。

私たちが神に近づくことが出来る大胆さは、神と人間との関係を回復して下さるイエス・キリストにおける神の恵みに基づくものです。神はいつも私たちの側近くにいってくださいます。それはイエスを通して私たちにしてくださった約束です。イエスは弟子たちに「どんなことがあっても、心配したりあわてたりしてはいけません。神を信じ、何もかも、わたしに任せなさい。父の住んでおられる所には、家がたくさんあります。もしなかったら、はっきり言っ

ておいたでしょう。実を言えば、あなたがたを迎える家を準備しに行くのです。すっかり準備ができたら、迎えに来ます。わたしがいる所に、いつでも、いられるようにしてあげるためにです。これだけ言えば、わたしがどこへ行くか、どうしたらそこへ行けるか、もうわかったでしょう。」(ヨハネ14:1-3)と言われます。イエスの言葉を理解しかねたトマスの「いいえ、ちっともわかりません。先生がどこへおいでになるのか、まるで見当もつきません。まして、そこへ行く道など、どうしてわかりましょう。」(ヨハネ14:5)と問う言葉に、イエスは「いいですか。わたしが道です。そして真理でもあり、いのちでもあります。わたしを通らなければ、だれ一人、父のところへは行けません。」(ヨハネ14:6)とお答えになりました。

私たちは、今これまでに考えたこともない苦悩の中にいます。私たちの祈りはこの苦悩から早く解放してくださいとの祈りが大半です。しかし、私たちの祈りは神の栄光が現されますように祈ることではありませんか。このような苦悩の中にあつてそれは、と言われるとするならそれは違います。私たちがしっかりと心に刻みつけているものは「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。」(マタイ 6:33) との主イエスの言葉です。そして今こそ、私たちはそのために祈るのです。「兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入れると確信しています。イエスは、垂れ幕、つまり、御自分の肉を通して、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださったのです。」「更に、わたしたちには神の家を支配する偉大な祭司がおられるのですから、信頼しきって真心から神に近づこうではありませんか。」とみ言葉は私たちに告げます。

私たちは、この新型コロナ・ウイルスのために、私たちのいのちを大事にしてきました。それは決して間違いではありません。そのために共に集まり主を礼拝すべき時を失ってきました。しかし私たちは、最初の教会の人たちが、本当に力を与えられ、励まされて生きてきた力がどこにあったか、「毎日ひたすら心一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していた」(使徒言行録 2:46-47) ことに見ています。

こうして曲がりなりにも、共に心一つにして神を讃美する喜びにあずからせていただきました。しっかりみ言葉を聞かせていただきます。「互いに愛と善行に励むように心がけ、集会を怠ったりせず、むしろ励まし合ひましょう。かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし合おうではありませんか。」

..... < 聖書の学び・祈禱会 >

神の言葉が働いている テサロニケー 2 : 1 - 13

- * 聖書箇所を声を出して読む。
- * 聖書から教えられたことを、30文字で書き留める。

パウロは、自分が伝えた福音によって、テサロニケの人たちがいかに生きているか心にかけていました。

福音には力があります。「神の言葉には、働きがある。」パウロはフィリピで苦しめられ、辱められる中になって、神の言葉に勇気づけられて、福音を語ってきました。それは神に喜んでいただくとの思いからでした。「わたしたちはあなたがたをいとおしく思っていたので、神の福音を伝えるばかりでなく、自分の命さえ喜んで与えたいと願ったほどです。あなたがたはわたしたちにとって愛する者となったからです。」とのパウロの思いは、しっかり神の言葉、福音を聞いてくれたことへの喜びがありました。どのようなことの中にあつても、神の言葉の働きには力がある。すべてを変えて、私たちに励まし、勇気づけてくれる働きをします。

